

# 消費者が知りたい 毒性情報

---

公益社団法人

日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会

環境委員長 村上千里

# 発表内容

1. NACS環境委員会の紹介
2. 発表内容の検討プロセス
3. 検討の結果
  - ①消費者の「毒性」に関する認識
  - ②気になるアイテム調査の結果
  - ③勉強会で得られた情報
4. 消費者が知りたい毒性情報

# 1. NACS環境委員会の紹介

公益社団法人

日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会

NIPPON ASSOCIATION of CONSUMER SPECIALISTS

■ 1988年6月発足

■ 消費生活に関する有資格者の団体

消費生活アドバイザー 消費生活コンサルタント 消費生活相談員の有志  
消費者と企業・行政のかけ橋として、消費者の意向を企業や行政等へ提言  
消費者からの苦情相談等に迅速かつ適切なアドバイスができる人材を養成

■ 全国7支部 約2,500名 (2020年4月現在)  
賛助会員 108団体

# NACS環境委員会

- 1999年4月から正式に活動
- 持続可能な社会を目指し、  
多様な関係者と連携し、  
環境に配慮した暮らしを可能とする  
ための提案を生み出し、普及する
- 持続可能な社会につながる商品選択を進めるべく  
「わたしたちの暮らしはすべて世界につながっている」  
「商品の一生を知ろう」をキーワードに勉強会やワークショップ、  
行政・企業等との意見交換会等 を実施



# NACS環境委員会とはどんな消費者？

- 知的好奇心 強め
- 社会問題への関心 高め
- 環境問題や持続可能性への問題意識 高め
  
- メンバーのバックグラウンドは  
元環境教育NGOスタッフ  
マーケティングリサーチ職員  
高校の家庭科教員  
流通企業のお客様相談窓口  
流通企業の環境部局 等

## 2. 発表内容の検討プロセス

- ① NACS環境委員会にて「毒性」についてイメージ出し
- ② 身の回りで毒性が気になるアイテムについて個人調査
  - ・ひとり1アイテム、1~2時間程度
  - ・わかったこと、わからなかったこと、気になることを整理
- ③ 専門家を迎えての勉強会
  - ・調べた結果へのフィードバックと、わからなかったことへの回答
  - ・調べ方のアドバイスなどをいただく
  - ・協力：国立環境研究所
- ④ 「消費者が知りたい毒性情報」について議論

## 3. 検討の結果

①消費者の「毒性」に関する認識

②気になるアイテム調査の結果

③勉強会で得られた情報

### 3. ①消費者の「毒性」に関する認識

## 「毒」とは？

思い浮か  
べてみた

「身体に害を及ぼすもの」  
「生態系に悪影響を及ぼすもの」

自然毒  
化学物質  
放射性物質



### 3. ①消費者の「毒性」に関する認識

## 「毒」に関する認識

- 「薬は間違えば毒にもなる」
- 「塩も取りすぎれば毒になる」
- 「閾値がある」
- 「安全性・有効性に関する基準が定められている」  
 人体への影響、環境・生態系への影響をふまえ、使用の可否／使用量／  
 表示義務などが決められている（経産省、農水省、厚労省など）
- 「アレルギー、シックハウス症候群、化学物質過敏症などの原因」
- 「感受性には個人差がある」
- 「人体の中に様々な化学物質が同時に入ること、どのような作用  
 が起こるのかは解明されていないのでは？」  
 複合汚染、壮大な人体実験、ADHDの原因ともいわれている？

出し合っ  
てみた

### 3. ①消費者の「毒性」に関する認識

## 「毒」に関連して気になる 身のまわりのもの

出し合っ  
てみた

- 農薬、ポストハーベスト
- 食品添加物
- 遺伝子組換え、ゲノム編集作物
- 薬、抗生物質

- 環境ホルモン
- 放射性物質、放射線
- 大気汚染（NO<sub>x</sub>、SO<sub>x</sub>）、PM2.5
- フロン

- ラップ、プラスチック容器

- ふぐ、キノコ
- トリカブト、ハブ、蜂

- 殺虫剤、防虫スプレー
- 除菌グッズ

※毒性学の対象が化学物質であることから、今回は化学物質に注目することにした

### 3. ②気になるアイテム調査の結果

#### ■調査フォーマットと選択アイテム

消費者として調べてみた

項目	内容	情報源 等
気になったこと		
調べ方		
わかったこと		<p>選択アイテム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラスチック容器、ラップ</li> <li>・次亜塩素酸水（特に噴霧した場合）</li> <li>・殺虫剤</li> <li>・除草剤（グリホサート）</li> <li>・特定芳香族アミンを生ずるアゾ染料</li> </ul>
わからなかったこと		
その他気がついたこと		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとり1アイテム、1～2時間程度</li> <li>・わかったこと、わからなかったこと、気になることを整理</li> </ul>

### 3. ②気になるアイテム調査の結果

#### ■プラスチック容器、ラップ

項目	内容	情報源 等
気になったこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 弁当容器、ラップからの溶出（レンジ加熱時）</li> <li>・ 摂取しても安全か</li> <li>・ 海洋プラスチックの毒性 ←時間切れでできず</li> </ul>	
調べ方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実物の表示（容器PP、フタPS、ラップPE）</li> <li>・ インターネット検索 （プラスチック容器／ラップ、電子レンジ、有害）</li> </ul>	<p>*1私企業のサイト→引用：厚生労働省</p>
わかったこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 弁当容器（PP,PS）ラップの素材（PE）と耐熱温度</li> <li>・ 電子レンジ対応容器は140℃以上（JIS）</li> <li>・ 使用上の注意を記載（油分の多い食品の加熱など）</li> <li>・ 加熱変形しても「成分の溶出試験の基準があり、適合した素材を食品に使用しているので、食べたとしても直ちに人体には影響しない」*1</li> <li>・ USDAは「変形したり溶けてしまい、体に害のある毒素が食べ物に移ってしまう可能性がある」*2</li> <li>・ ノニフェノール、DINA、ATBC、DEHAも含め、急性毒性は低い、遺伝性毒性及び発がん性毒性は認められていない*3</li> </ul>	<p>*2個人のブログ→引用：米国農務省USDA</p> <p>*3個人のブログ→引用：食品安全委員会ファクトシート</p>

### 3. ②気になるアイテム調査の結果

#### ■プラスチック容器、ラップ

#### ③専門家の回答

項目	内容
わからなかったこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 溶出した可塑剤等も、体内に吸収されずに排出されるので問題ない、と考えてよいのか？</li> <li>・ 化学物質過敏症やアレルギーの子どもなどにも大丈夫なのか？</li> <li>・ 米国農務省と日本の食品安全委員会の見解が異なるのはなぜか？</li> </ul>
その他気がついたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>検索ワードの選び方で、最初から公的機関の情報にはたどり着けないケースが多々ある</b> ※もう一人のメンバーは日本プラスチック工業連盟サイトに到達</li> <li>・ 業界やメーカーの情報も、公的機関の情報が引用されていると信頼度が増す</li> <li>・ 食品安全委員会のファクトシートは読み込んで理解するのに時間がかかる → <b>正確な情報は読み取りが難しい</b></li> </ul>

A. フタル酸エステル類は子どもの肥満、喘息との関連が指摘されているため、現在エコチルで調査中

A. アレルギー疾患を有する方、子どもや高齢者など脆弱な要素を持つ方には悪い方向に作用する可能性がないとは言い切れない

### 3. ③勉強会で得られた情報

#### ■プラスチック容器、ラップ

- ・規制されている物質は使われないが、それに類似した代替物質が使われる可能性はある  
国内生産のものはポジティブリストに載っていないものは使わない  
自主的取り組みが行われているが、輸入品についてはそこまでの規制はされていない
- ・ADIのendpointとコホートのendpointは一致していない可能性があるため、「ADIを超過していなければ絶対安全」とは言い切れない
- ・一日の化学物質の摂取量はヨーロッパで調査が始まっている  
(目的は実態把握)

### 3. ③勉強会で得られた情報

#### ■殺虫剤

Q. テーブルや食器などについて、時間が経てば揮発するのか？

A. ピレスロイド系は分解されやすい

Q. 夏の期間、毎日使うことになるが、人体などへの影響は大丈夫か？

A. ピレスロイド系の安全性は比較的確認されている。昆虫と脊椎動物の感受性の違いが大きい

- ・ 環境省が一般市民向けに発行した『殺虫剤と化学物質』（2007）はわかりやすく解説している
- ・ 海外には毒性が強いものもある
- ・ 業務用は注意して使ったほうが良い



### 3. ③勉強会で得られた情報

#### ■除草剤（グリホサート）

Q. 国・機関による見解の違いがあるのはなぜか？

例) 2015年3月WHOの下部組織、国際がん研究機関（IARC）がグリホサートをグループ2A（ヒトに対しておそらく発がん性がある）に分類

一方、日本では内閣府食品安全委員会が2016年7月に「神経毒性、発がん性、繁殖能に対する影響、催奇形性及び遺伝毒性は認められなかった」と発表

欧州食品安全機関（EFSA）は2015年に「グリホサートは発がん性または変異原性を示さず、受精能、生殖、胚発生に影響する毒性を持たない」、欧州化学物質庁（ECHA）が2017年に「グリホサートは発がん性物質、変異原性物質あるいは生殖毒性と分類する基準に合致しない」という見解を示した

\* 日産化学株式会社 農業化学品事業部 営業企画部ラウンドアップグループによる開示資料より

A. IRACはあくまでも発がん性を持っているか否か

EFSAは量－反応関係から「明らかではない」としたのではないか  
食糧安全委員会ではリスク評価書もADIも出している



### 3. ③勉強会で得られた情報

#### ■その他

- 化学物質の規制に関する国による違いは、政治的な思惑、文化的な背景などから生じる
- 人体への影響だけでなく、生態系への影響も検討されつつある（農薬の毒性試験）
- 高齢者や子ども、疾患を持っている人など、感受性の違いによって、人々への影響が異なる可能性がある
- リスクの大きさは、交通事故等との比較で考えることも有効
- 信頼できる情報源は紹介するのがなかなか難しい

#### ■投げかけられた問い

- リスクとベネフィットの問題。被害を被る人と恩恵を受ける人が同一の場合と、異なる場合がある。これをどう考えるか

## 4. 消費者が知りたい毒性情報

まとめに入る前に . . . .

### ■ 「安全に対する考え方は人によって異なる」ことがわかった

例えば、国による規制基準について

国として安全基準があり、企業は守っているはず。注意書きを守って使用すれば安全

薬害エイズなど過去の経験から政府への不信感があり、一概に信じてよいものか？

国により安全基準が異なることは、風土の違いによるリスク・ベネフィットを考えれば理解できる

企業のベネフィットのために消費者がリスクを負っているのではないか？

欧州は予防原則に沿った厳しい基準を設ける傾向にある。日本にも必要では？

→次ページからの提案は委員会メンバー全員一致の声ではないが、  
少なくとも大筋の合意が得られた意見

## 4. 消費者が知りたい毒性情報

### ■ 「説明されていないことも多い」ことがわかった

- 急性毒性や発がん性、遺伝毒性などはチェックされているが、子どもの成長や神経系への影響などはまだ説明されていない点も多い
- 規制が守られていても、アレルギー疾患を有する方や子ども・高齢者など脆弱な要素を持つ方には、悪い方向に作用する可能性がないとは言い切れない
- 人体の中に様々な化学物質が同時に入ることによって、どのような作用が起こるのか？については説明されていない（摂取量の調査が始まったばかり）
- 生態系への影響の観点からの評価や規制は始まったばかり

→ 「説明されていない」ことも知らせてほしい

## 4. 消費者が知りたい毒性情報

### ■適切な情報にたどり着くまでが大変

- 化学物質の安全性に関する情報は、厚労省・農水省・環境省などバラバラに存在
- 検索ワードを上手に設定できる力が消費者には必要
- 環境省が2007年度に作成した冊子はわかりやすいが、検索してもたどり着けなかった

→消費財に関する安全情報は、  
消費者向けワンストップサイトがあるとよいのでは

- 「不安」「知りたい」といった声を消費者が届けるサイト
  - 多くの声があるものからQ&Aを作成し公開
  - より詳しく知りたい人へのリンク紹介
  - 消費者の科学リテラシーのアップへ

## 4. 消費者が知りたい毒性情報

### ■消費者自身が身につけたい情報リテラシー

・正しい情報の見極め方「か・ち・も・な・い」

か 書いたのは誰か

ち 違う情報と比べたか

も 元ネタ（根拠）は何か

な 何のための情報か（目的）

い いつの情報か

※参考：聖路加国際大学大学院看護学研究科中山和弘教授、的場智子研究員

[http://www.healthliteracy.jp/internet/post\\_10.html](http://www.healthliteracy.jp/internet/post_10.html)

→消費者が毒性情報に向き合うときのイロハを  
示していただくとよいのでは

## 4. 消費者が知りたい毒性情報

### ■今後の課題 リスクとベネフィットの再考

商品や薬の使用を選択する本人が、ベネフィットを得ると同時にリスクを背負うことは仕方ないが

- ・ 親の選択によって子どもが受けるリスク
  - ・ 生産にかかわる人が受けるリスク
  - ・ 現世代の選択によって将来世代が受けるリスク
  - ・ 人間の選択によって、多様な種が受けるリスク
- などについて、もっと考えるべきではないか